2020年4月吉日　発行

# 宇津貫みどりの会　第96号

宇津貫みどりの会
連絡先　城所幸子
TEL/FAX　042－636－2466

里山は芽吹きが始まって萌黄色に染まり、その中にヤマザクラの桃色が所々に点在する春爛漫の時期を迎えました。春を告げる花、カタクリが開き、アズマイチゲとともに斜面を彩っています。アズマネザサを刈り、落ち葉掃きを軽く行うことを心掛けたためか株数も増えてきました。これから緑地では春の花が次々と開き平穏そのものです。
ところが今、コロナウイルス感染拡大のため、各地で大変な状況となっています。本来なら、緑地は安全な場所なのですが・・・。みどりの会も3月の活動を休止しました。ヤマツツジも可憐なつぼみを持っていますが、その影響で「ヤマツツジ観賞会」は中止とさせていただきます。緑地への散策を毎年楽しみにされている皆様には申し訳なく思います。東日本大震災のことを思い出し、普通の暮らしが営まれることのありがたさをしみじみと感じます。人の営みは時として試練がつきもののようです。ただただ終息を願うばかりです。

宇津貫みどりの会
城所　幸子

**会員募集中！**
宇津貫みどりの会に参加して、里山の保全に汗を流してみませんか。月3、4回山の手入れを行っています。自然観察や健康増進に如何ですか。とても楽しい会ですよ!!

**当会のホームページを、次に移転しました。**
http://utsunukimidori.ie-yasu.com/
又は、QRコード

# わたしの故郷はどこ？

1948(昭和23)年撮影の航空写真

現在の新宿新都心(淀橋浄水場跡地)

小涌谷「蓬莱園(旧三河屋公園)

金時茶屋（金時山山頂付近）

1970 年代　小田急線「相模大野駅」
北口ロータリー

現在の小田急線「相模大野駅」
北口ロータリー

## 1. 生まれ育った街・・・新宿区淀橋（現・西新宿5丁目）

新宿副都心のオフィス街と新宿中央公園一帯は、55年ほど前には淀橋浄水場が都民の水道水供給基地の役割を担っていたところで、その浄水場から西へ徒歩10分程の淀橋で私は生まれた。わが家と新宿駅は淀橋浄水場（角筈三丁目）によって分断されていたため、新宿駅に出かける時はバスで甲州街道を迂回 していた。新都心開発に併せ道路網が整備され、また1997年12月、大江戸線が開通し付近に「都庁前」駅や「西新宿五丁目」駅 ができて、この地域の住環境は一変したが、私は1973年には新宿を脱出していた。

【淀橋浄水場】
1898年（明治31年）竣工・通水、取水元は多摩川。玉川上水から受水し、新宿を中心に周辺9区に給水されていた。1965年（昭和40年）廃止され、その役割は東村山浄水場へ移管されている。新宿新都心のほぼ全域が淀橋浄水場の跡地に開発され現在に至る。その広さは341,743㎡（後楽園球場の30面相当）に及ぶ。

## 2. 少年期のリゾート地生活体験・・・箱根小涌谷

小学5・6年生の頃、箱根小涌谷にある新宿区立全寮制養護施設に在籍していた。この間、月二回の登山活動を通じ箱根の山々をほぼ登坂し、自称「箱根山通」？であった。今もご健在の金時山の金時茶屋二代目（金時娘＝小宮山妙子さん「現在85歳前後」）は当時20代で、日焼けしたピカピカ顔の元気お姉さんといった印象だった。
山の環境保全の一翼を担っている登山マナー、飲用湧き水のある沢の源流域でのマナー等も箱根登山を通じて教師から厳しく指導され体得した。野鳥・蛇・カエル・ミツバチ、ツツジ・グミ・アケビ等の動植物に関心と親しみを覚えたのは箱根在住のおかげで、里山環境保全活動に参画した動機付けになっていたのかも知れない。

## 3. みどり多き思い出の街・・・相模原

所帯を持ち相模大野に12年、東林間に12年、橋本に2年、通算26年間を相模原市で過ごした。小田急線の通勤ラッシュと長い通勤時間で苦労した他は、周囲を緑に囲まれ子供たちの遊び場にも恵まれた環境に満足していた。
高校野球の名門、東海大相模高校や原巨人監督の生家が近くにあった影響からか少年野球が大変盛んな地域で、長男も地元の少年野球チームやボーイズリーグに所属して野球を楽しんでいた。

## 4. 歴史ある街・・・橋本

リニア新幹線で神奈川県唯一の停車駅として最近脚光を浴びている橋本は、約1万5千年前の旧石器時代から人が住み始めていたそうで、橋本遺跡（現・元橋本町）からは先土器時代から縄文時代の土器や住居跡が確認されている。
現在は北口が中心の印象が強いけれど、あと7年もすると南口がリニア新幹線営業開始とともにあの新横浜駅周辺のように変貌を遂げるに違いない。
居住していたマンションの住み心地が悪く、約2年で転居してしまったのが残念なほど「リニア新幹線停車駅ニュース」はインパクトが大きかった。

古の初代駅舎 JR横浜線「橋本駅北口」
（撮影年次不詳）

現在のJR横浜線「橋本駅北口ロータリー（新駅「神奈川県駅（仮称）」は、旧県立相原高校跡地の地下30mに、二面四線で2027年3月竣工予定）

京王相模原線「多摩境駅」
（1991年4月開業。京王電鉄では最新駅であるとともに、町田市内唯一の駅。町田市内を900m走行している。

約40年前の
みなみ野シティ
開発前の航空写真

5. 新しい駅と街・・・町田市小山ケ丘（京王相模原線 多摩境）
多摩境に気に入った物件が見つかり2001年に転居して町田市民となった。入居してほどなくすると小学校・高専学校・スーパーマーケット・コンビニ・ホームセンター等が次々とオープン、街としての体裁が整っていった。すぐ近くには「都立小山内裏公園」「多摩美術大学」等もあって、郊外文教地区の感がある。
入居して間もない深夜の通勤帰路、歩道の傍らでバッタリとタヌキに遭遇したのには盆と正月が一緒に来た？ような驚きであった。

6. 自然環境と共生の街・・・みなみ野シティ
「八王子・立川・多摩業務核都市構想」の一環として、国道16号線沿道という立地から、事務所・工場・流通関連施設などが配置され、併せて里山や水路を生かした「環境共生都市」をコンセプトに1997年に3月、都市再生機構が主体の「南八王子土地区画整理事業」が始動。翌4月に八王子みなみ野駅が開業して以降、本格的開発が進み今日に至る。2019年末の人口は25,280人（計画人口28,000人）となっている。

橋本に在住していた2000年頃、下車すべきところを八王子まで乗り過ごし、偶然この駅の存在を知った。車窓から見た駅東口周辺の家並みはまだ疎らで新駅そのものだったが、この20年間で駅周辺の利便性も向上、併せて大企業の研究所や工場、そして病院等の誘致が進み駅の乗降客数も増えて街には益々活気がでてきた。
みなみ野シティのニュータウン開発は電線の地中化・域内道路幅6m以上・宅地面積165㎡以上の地域協定や建築協定によって、良好な住環境を維持している。
多摩境のマンションに入居して4年目に大病を患い、住居への思いは戸建て（終の棲家）探しへと変節していた・・・
みなみ野シティは駅に近く主要駅へのアクセスが良い。加えて周囲には里山が点在するみどり豊かなこの街にひとめ惚れ、終の棲家と即決した。以来15年が経過し、「冬寒く夏暑い」ところを除けば新旧住民との交流機会や地域貢献活動などに恵まれ、みなみ野シティが終の棲家に相応しいと改めて実感している昨今だ。毎年、住みたい街の上位にランクされているのも頷ける。

「ふるさと」をあえて紐解けば
自分の生まれ育った土地
以前に住んでいた土地
自分の家
とあり、これまで私が生活していた所はその夫々がふるさとに該当することになり、頗る納得がいく。　　H．K

現在のみなみ野シティの航空写真

# これ迄の主な活動　1月～3月

1月6日
今年の活動の開始です。恒例の山の神にお詣りすることから一年の始まりです。13名の会員とともに、2名の体験参加者が加わりました。

1月12日
腐葉土の囲いが朽ちて使用に耐えなくなっていました。
今回は丈夫な孟宗竹を使い、サクラの窪地やシイタケの窪地の囲いを作り直しました。

2月3日
痛んでいたクリの窪地へ渡る橋の架け替え工事をおこないました。年初から構想をまとめ、材料を準備し、この日に完成しました。

2月17日
八王子日野カワセミ会の会長から、フクロウが営巣を始めたようだ、との連絡をいただきました。今年こそ雛が育ってほしいと、ロープを張りました。

2月23日
アセビの道は、これまで急な坂のままにしてきました。
一般の方々を案内することもあり、安全のため階段を造りました。

## 山の神

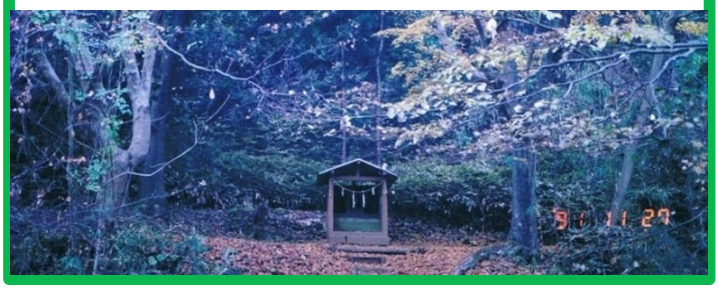
日本人にとっての山は、たとえばドイツ語のHaufen（山）のように、単に一定の高さをもった土地の隆起を意味するだけではない。山には豊かな森があり、人々に恵みをもたらしてくれる場所なのだ。従って、山では、産土[うぶすな]神[がみ]が宿り、山を守っていると考えた。その神の許しを得て初めて自然の恵みを戴くことができるのであり、それ故、怖れはばかり感謝の念を抱いてきたのだった。

時代が下って稲作が発達すると、山の神は農業と結びつくようになった。春になると山から里へ降りてきて田の神となり、里の民に豊穣をもたらす。そうして、秋になると山へ帰って山の神となり、冬の間静かに鎮まる。これに応えて、里人は、旧暦の二月になると迎えの祭りを行い、十一月には見送りの祭りを営んできた。 このように、山の神は、豊かな実りをもたらす年神であり、里の民にとって大変近しい土着神（地祇）であった。そのため、大和の神々である天津神[あまつかみ]からは異端視され、嫉妬深い醜女や大蛇・妖怪の類だと見做されることもあった。『日本書紀』にも、「山神大蛇に化[な]りて道に当れり」と記されている。

このように、山の神は嫉妬深い女神〔おんながみ〕との受け取りが定着してしまった。見目麗しい女人が山の神にお参りすると、山の神は大いに嫉妬心を起こし、その女人に祟ったという。そこで、村人たちは魚のオコゼをお供えするようになった。虎魚とも書くオコゼの醜悪な顔を見ると、山の神は、自分の美貌に安心し、村に恵みをもたらしてくれる、と信じられたのだ。

かつて宇津貫には「山入り」と呼ばれる正月の行事があった。。竹でつくった瓶子に酒を入れて山の神に供える。また、笹に御幣を（つけて田や畑に立てる。こうして、山の神に里に降りてきてもらい、田の神として五穀豊穣をもたらしてもらうよう願うのだ。また、宇津貫和田内では、山の神の祭礼を九月十七日におこなってきたという。これは、収穫をもたらしてくれた神への感謝の祭であったのだろう。

今、宇津貫緑地に祭ってある山の神は、下の写真にあるように、かつては里にあったもの。山の作業をする私たちの守り神なのです。



## 今後の予定

新型コロナウイルスは猛威をふるい続けていて、いつ終息するか分からない状況です。その動向を見ながら今後の活動を予定していきます。

【編集後記】
オリンピック・パラリンピック開催の年が明けたと思ったら、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めました。巻頭辞にもあるように、われわれの活動も控えざるを得なくなりました。更に、今後いつになったら元通りの活動を始められるかも五里霧です。ところが、自然は右往左往する人間を尻目に、着々と自分の営みを続けています。フクジュソウもカタクリも、時が来て、今年も順調にきれいな花をたくさん見せてくれました。